

六中吹奏楽部が 全日本アンサンブルコンテストへ出場

問い合わせ 指導室

2月5日に府中の森芸術劇場で行われた「第40回東京都アンサンブルコンテスト」において六中吹奏楽部が中学校の部で金賞を受賞し、全国大会に出場することになりました。

六中は「繚乱～能『桜川』の物語によるラブソディ」を演奏。激戦を勝ち抜き、初の東京都代表に選ばれました。第40回全日本アンサンブルコンテストは3月18日(土)に兵庫県尼崎市で開催予定です。

スプリングコンサート 2017

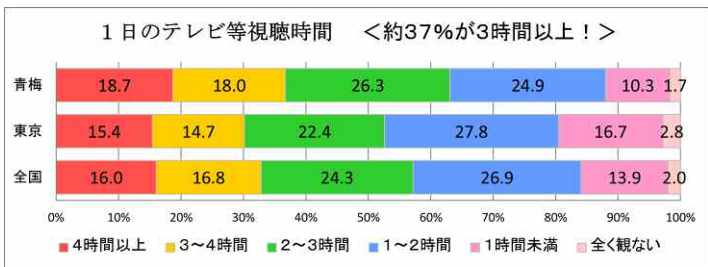
六中吹奏楽部ほか3団体が出演します。「繚乱～能『桜川』の物語によるラブソディ」も演奏しますので、ぜひお越しください。

日時 4月2日(日) 午後2時開演
会場 六中体育館 入場無料
持ち物 体育館履き
直接会場へ
問い合わせ 六中 ☎ 74-5344



中学校では、科学的な思考力・表現力等を高めるための授業改善、確かな読む力を育む国語科の授業、学力ステップアップ推進地域指定事業の取り組みの発表がありました。

中でも注目したいのは、小学校保健研究部から、市内小学生の「テレビの視聴



「旧稲葉家住宅」土蔵特別公開

通常時非公開の「旧稲葉家住宅」土蔵内部を特別公開します。

公開日時 3月18日(土)～20日(祝)、25日(土)、26日(日) 午前10時～午後3時30分

会場 旧稲葉家住宅土蔵(森下町499-4)

観覧無料

その他 一階のみの公開です。履物を脱いでお上がりください。

問い合わせ 郷土博物館 ☎ 23-6859



文化財住宅の公開時間変更

旧宮崎家住宅(駒木町1-684)・旧吉野家住宅(新町1-21-9)・旧稲葉家住宅(森下町499-4)の文化財住宅は、月曜日(祝日の場合は翌平日)と年末年始を除く毎日、午前10時から午後4時まで公開していますが、4月1日(土)より公開時間を午前10時から午後5時までに変更します。



▲旧宮崎家住宅

問い合わせ 郷土博物館 ☎ 23-6859

青梅市教育相談所 心理相談員(嘱託職員)募集

応募資格 臨床心理士の資格を有するか取得見込みであり、個人情報を守り職務を積極的かつ適切に遂行できる方

募集人数 週4日・週2日：各1人

勤務期間 6月～平成30年3月31日

※勤務状況等により次年度への更新が可能です。

勤務時間 午前8時30分～午後5時15分(実働7時間45分)

勤務場所 青梅市教育相談所

賃金 有資格の方：日額1万5千516円▽資格取得見込みの方：1万4千880円

※市の賃金改定により変動

※申込書は、「青梅市臨時

することがあります。

選考方法 面接選考

※応募者が10人を超えた場合は書類選考を行い、その合格者に対し面接選考(有資格の方は面接時に臨床心理士資格証の写しを持参)

申し込み 4月12日までに「青梅市教育相談所・青梅市適応指導教室嘱託職員申込書」に応募動機(横書き800字以内をA4サイズ)の紙2枚以内に記入して添えて提出

※週2日を希望する方、有資格の方、実務経験のある方はその旨を必ず記入してください。

その他 提出書類は返却しません。

問い合わせ 指導室



市立美術館臨時休館

市立美術館は展示替えのため、3月21日(火)～4月14日(金)は臨時休館となります。

次の開館は4月15日(土)～6月11日(日)で、「鳥を描くく写実と象徴」を開催します。

問い合わせ 市立美術館 ☎ 24-1195



小・中学校の教育研究発表会から

2月1日、8日に市内小・中学校の教育研究発表会を市民会館で開催しました。

小学校では、オリンピック・パラリンピック教育や学力ステップアップ推進地域指定事業の取り組み、学域向上をこころから健康づくりの面や障害の特性に応じた支援の工夫から研究した発表がありました。

中学校では、科学的な思考力・表現力等を高めるための授業改善、確かな読む力を育む国語科の授業、学力ステップアップ推進地域指定事業の取り組みの発表がありました。

中でも注目したいのは、小学校保健研究部から、市内小学生の「テレビの視聴

やゲームをする時間」が東京都や全国に比べて長いことが課題であるとの報告です。平成28年度全国学力・学習状況調査において「1時間以上2時間未満」の子どもの正答率が一番高いことが明らかになっていました。生活習慣を見直すことで子供たちに必要な学力を身に付けさせましょう。

問い合わせ 指導室

青梅市の文化遺産 3

霞台遺跡群出土の古墳時代の壺

市文化財保護指導員 鈴木晴也

霞台遺跡群は、霞川南岸部に沿う野上町から大門、今寺におよぶ市内で最大の遺跡です。

この地域は昭和40年代半ば以降、開発が盛んとなり、それに伴う発掘調査が現在までに60回行われ、古墳時代前期だけでも数百軒規模の集落であったとみられています。

昭和56年7月に大門2丁目で発掘した住居跡には、台付甕7点、大小壺6点、器台、高坏各2点、甗1点などが残されています。柱などの材料は炭化状態で発掘され、他の

写真の土器は、ここから出土した、今から約1千500年前の古墳時代前期の貯蔵用の壺です。床面を覆う一番下の層に、縁の部分を上に向け、そのまま押しつぶされた状態で見つかりました。

高さ33cm、口径20・7cm、胴の幅29cmで、首の内径は8・5cm、底部は石こ

問い合わせ 郷土博物館 ☎ 23-6859

度や、胴と口縁の幅のバランスもよく、肩の部分には縄文を模したような成形痕らしきものがあります。

この部分に直径1cm程に彩色された水玉文様が縁の外にまで付けられ、煤けた部分もくっきりと朱色が目立ちます。重ならないよう付けられた水玉ですが、その乱雑さは美的な感覚からは離れた感じを持ちます。また、見方によれば、はしかの治癒した痕跡にも似ています。その本心はもろろん分かりません。

機能を重視したこの時代の土器は装飾という面に欠ける中、彩色された壺の発見は市内では



大変珍しく、また、り災により放置された住居は当時の生活情報がそのまま残っており、残された土器から当時の生活を推測する鍵ともなる重要な遺跡です。

この土器は郷土博物館の「青梅市の文化遺産」のコーナーで展示されています。